

# JR 新駅構想研究会 第2回有識者部会 議事概要

日時：平成 22 年 12 月 27 日（月）

場所：書面会議

## 【議 題】

### 1. 第 1 回市民代表部会の意見について

### 2. 研究会のスケジュールについて

(1) 東（明石駅－西明石駅間）の新駅、西（大久保駅－魚住駅間）の新駅 共通の内容  
(今後の市の方針について)

委 員： 市民代表部会では、東の新駅は反対、西の新駅は整備への期待が示されたということだが、このような市民代表部会の結果を受けて、市はどのように考えているのか。

事 務 局： 東の新駅については、現状の地元は市の進め方に対する不信感を持っている状況で、駅の必要性等を議論できるようなスタートラインにも立っていない状況である。今後、地元説明を行い、不信感を払拭するとともに、地元意見の把握を行っていきたいと考えている。

一方で西の新駅については、整備への期待が示されたが、候補地付近が農業振興地域であることや、庁内的にもこれまで検討されていないことから、熟度が低い状況で、長期的な調整等が必要と考えている。

以上を踏まえながら地元説明での意見も参考にして、方針を考えていくことになる。

(東西の新駅構想の考え方について)

委 員： 東と西の新駅は、検討の熟度や周辺状況が異なることから、分けて考えるべきだと思う。

(新駅構想に対する市の考え方)

委 員： 市は中立といっても、わざわざ新駅を検討するのだから、中立ということはないのではないか。

事 務 局： 平成 16 年の JR からの提案以降、市は新駅の検討を行ってきたこともあり、必要性は感じている。しかし、研究会でお示ししているように、有識者や市民と、新駅構想の必要性や実現性、課題を十分話し合い、最終は中立な立場で結論を出すことになる。

「整備する」、「整備しない」や「整備する場合の時期」については、皆さんの意見の状況を踏まえて決定することになる。

(JR 新駅構想の結論について)

委 員： 研究会は有識者部会と市民代表部会の意見を踏まえ、どのような結論を導くことまで期待されていると考えればよいのか。

事 務 局： 研究会は、新駅構想の必要性や実現性・課題などの意見を出していただく場と考えている。研究会から市へ意見をいただき、それを踏まえ、市として結論を出さなければ

ばならないと考えている。

(都市計画マスタープランとの整合について)

委員： 都市計画マスタープランとの整合についてはどのように考えているのか。

事務局： 都市計画マスタープランは現在策定中で、新駅の検討については何らかの形でマスタープランに位置づけたいと考えている。

(灘一六甲道間の新駅構想について)

事務局： 第1回有識者部会の後、灘一六甲道間の新駅ができる話が新聞に掲載されていた。

委員： JR は、都市部は短い区間でも駅をつくるというのが方針なのではないか。都市内型の交通に近いように思う。そういうサービスと、新快速のような中距離を結ぶサービスとを使い分けているのではないか。また、このような方針に併せて、請願的な駅も減ってきているのではないか。

(地域福祉の観点からの検討について)

委員： 地域福祉もまちづくりの重要な要素であるので、そういった観点からも新駅の意見を出していかなければならないと思っている。

(2) 東の新駅に関する内容

(中心市街地活性化基本計画との整合について)

委員： 中心市街地活性化基本計画との整合は、事務局の宿題となっているので、今後よろしくお願ひしたい。

(新駅構想と中心市街地活性化基本計画との関係)

委員： 将来を見据えたまちづくりの中で、「明石駅～西明石駅間」に新駅を検討することは、全く反論もないが、立ち上げる時期が非常にタイミング悪い。

すぐに新駅を進めるという結論になれば、間違いなく中活に影響し、市への不信感から中活計画の委員を辞めることになる。

とはいうものの、新駅と中活事業の時期をずらすなど、中活と新駅との整合性を考えることはできないのか。

事務局： 新駅を進めることになったとしても、中活の事業期間内は、予算的に新駅の整備を行うことはできず、すぐに進めることはない。5年間の中活の事業が終了し、その後5年程度は事業の効果を確認した上で整備を始めた方が良いかもしれない。ただ、事前準備は予め行うと思う。

委員： 確認期間を5年も考える必要はなく、理屈を整理すればよいと思う。また、中活の期間中に事前準備を行なうことも問題ないと思う。

結論を出す際に、スケジュールについても言及し、中活にも影響しないようなストーリーを市で描いてほしい。

(中活優先→中活5年期間終了→効果の確認、状況踏まえて新駅スタート)

事務局： 了解した。今後の宿題とさせていただきたい。

(地元説明について①)

委員： 地元説明をしても、地元で賛否はまとまらないのではないかと。

事務局： 説明会を行って、地元の考え方が一本化するとは思っていない。ただ、現状の地元は不信感を持っている状況なので、十分に説明して不信感を払拭するとともに、地元意見の把握を行う必要があると考えている。意見を踏まえ、最終は市として結論を出すこととなる。

(地元説明について②)

委員： 地元といっても、事業者（工場）、商業者、住民など様々な方がいる。また、中心市街地との調整も必要である。それぞれと十分意見交換を行っていくべきだと思う。ただ、年度末までの期間で十分な調整を行うことは難しいと思う。

事務局： おっしゃるように、色々な方々と調整が必要と思っている。また、新駅によって最も影響を受けるのは直近の地元住民であるため、まずはこの方々を中心に説明したい。また、地元説明は不足したまま終わりにたくないため、年度末までの期間で足りなければ、期間を延伸して行いたいと考えている。

(地元説明について③)

委員： 新駅構想においては、地元のある程度の合意は必要だと思う。仮に駅ができた場合、騒音の問題や交通の問題などについて市はどのように考えているのか、地元の方々は心配されると思うので、地元説明は十分行うべきだと思う。

(地元説明の対象自治会について)

委員： 地元説明はどのような範囲を対象として行うつもり？

事務局： 新駅候補地が大道町自治会、硯町1丁目自治会に挟まれているので、両自治会を対象として考えている。

広い範囲を対象に説明しても良いかもしれないが、直近地元の方が色々な影響を受けることや、新駅の想定される利用者が狭い範囲であることを考えると、あまり広い範囲としない方がよいかもしれない。

委員： 姫路の新駅ができたところは、何にもないところなので、新駅の効果ははっきりしていて整備は進めやすいかもしれないが、明石のような既成市街地に作るのは効果の見きわめが難しいと思う。

(新駅の検討の進め方について)

委員： 東の新駅を重点的に意見交換していくことになるのか。

事務局： これまでの検討の熟度やJRの考え方からすると、東の新駅を重点的に意見交換することになると思う。西の新駅は整備の期待はあるが、農振地域制度の課題などの整理やどんなまちづくりのあり方などの議論が必要なので、長期的な検討として考えている。

(3) 西の新駅に関する内容

(地元説明について)

委員： 西の新駅の地元説明については、具体的な検討資料を持っていない中で、入り方が難しいのではないか。

事務局： 西の新駅は出し方が難しいと思っている。地元の会長に相談し、方針を考えていきたい。

(地元説明について)

委員： 駅を検討する前に、将来のまちづくりをどのように考えるか、地元との話し合いを進める必要があると思う。

以上